

ひよし川柳会

苦勞して生きた強さで味が出る

熊本 忠真

おいそれと妥協はしない強い意志

栗木 一郎

年重ね堅めのうどん遠慮がち

松本 立子

祖母の打つうどん懐かし真似てみる

水野すみこ

メニュー無しうどんに懸けるプロの味

若宮 賢敬

塗り箸にうどんあなたはそんな人

渡辺 光男

買い物の計画立てる妻の知恵

米子 達雄

ポイント券に釣られて通うお買い物

渡辺 照子

節分に檀家総出の豆仕度

宇津本アヤ子

節分の鬼へ園児の泣き笑い

宮川 柳酔

豆の数食えない程の年になり

川添 忠昭

節分の豆バリバリと古い元気

山本 雅之

買い物のプロ暗算の早い祖母

男武志津江

音のなき雨となりけり春連れて

大川 眺春

春待つは哀しきものと知る日かな

毛利 敦

若僧の頭青々春浅し

小西 あや

逝く時も君毅然たり浅き春

梶原 一美

万天の星の実付けし大冬木

松岡 寛孝

福寿草風も道草してゆきぬ

伊藤 京

索引をめくる指先余寒あり

井谷 けい

薄氷や生きてゐる吾人恋し

福本 恵子

子に話す糸口梅のほぐれけり

浜田 千鶴

鉄棒を蹴り上げる子に春一番

長田 徳子

人の背に降りて消えゆく春の雪

高田 弘子

諸々の息つきひそか春浅し

藤田 光子

愛媛若葉ひろみ句会

Andrew's Story【No.12】

「School regulations」

3月になって、「新しさ」を感じる季節になりました。春が来ると、命がまた始まるような気がします。花が咲き、木々は緑に茂り、そして、子ども達は卒業して新しい世界へと旅立っていきます。卒業と入学、その「終わり」と「始まり」は繋がった一つのテーマだと思えます。

今回は卒業と新学期に合わせて、学校の話、その中でも児童生徒の服装について話したいと思えます。

日本の学校では、一般的に制服を着て通学します。そして、髪を染めたり、ピアスを開けたりすることは禁止されています。

一方、アメリカでは、個性を出す

1つの手段として、私服で通学したり、髪を染めたり、ピアスを開けたりすることが「ある程度」認められています。「ある程度」とは例えば、肌の露出が多い私服や、耳と鼻以外に開けられた挑発的なピアス（へそなど）は禁止されています。また、「自然の色（金髪、黒、茶色、赤）」に髪を染めることは許可されていますが、それ以上の奇抜な色に染めることは認められていません。

このような風習からアメリカの学校には、日本の学校とは異なりさまざまな個性的な格好をした生徒が大勢います。面白いですね、この学校文化の違い。



鬼北町外国語指導助手
通称：アンディ
アメリカ合衆国アリゾナ州出身
※毎週水曜日、英会話教室を開講しています。